5月12日

響く音色　支えられて40年

近江八幡吹奏楽団の創立40周年を記念する定期演奏会が文化会館大ホールで開催され、約500人の観衆が集まりました。「健全なる青少年の育成」と「近江八幡市の音楽文化の向上」を最大のテーマとして創立された同楽団は、現在、中学2年生から80歳代までの学生や社会人、リタイヤ後の人など、多彩なメンバー52人で活動しています。

この日の演奏会では、吹奏楽で20世紀を代表する音楽家の1人とされるアルフレッド・リード作曲の音楽や、映画『グレイテスト・ショーマン』の「ディス・イズ・ミー」など、アンコール曲も合わせて9曲が演奏され、ステージと観客席は一体となって音楽を楽しんでいました。

左から 馬場 利男さん（鷹飼町）、松村 美沙枝さん（船木町）、山田 恵美さん（西本郷町）、東 知樹さん（西本郷町）

市民が地域の魅力やイベントの取材情報などを、市広報紙やSNSなどで発信する「赤こんリポーター」の今年度のメンバーが決まりました。これからも市内のさまざまなできごとを、市民目線でお伝えしていきます。

Instagram はこちら　Facebook はこちら

5月16日

「市民の皆さんへ感謝を込めて」新市庁舎の家具整備に寄付

日本料理店の株式会社ひょうたんや（鷹飼町）が、昭和24年の創業から今年で75周年を迎えるにあたり、お世話になった市民の皆さんへ恩返ししたいとの思いから、750万円を寄付いただきました。

代表取締役の中嶋和義さん（写真右）は、「75年間支えてもらい、育てていただいた市民の皆さんが訪れる新市庁舎のために活用してほしい」と話していました。市では寄付金を、令和8年1月に供用開始予定の新市庁舎1階、市民向けスペースの家具整備に活用する予定です。

5月6日

七頭の馬にて勝負決する神事「足伏走馬」

ゴールデンウィーク最終日、加茂町の賀茂神社で古式にのっとった伝統の競馬神事、「足伏走馬」が行われました。

地元関係者らが古式の衣装を身にまとって馬にまたがり、町内を練り歩く「渡御」の後、「七頭の馬、七番の神事」ともいわれる7頭の馬が2頭ずつ走る、トーナメント方式の競馬神事「足伏走馬」が始まりました。

太鼓の音を合図に、騎手が「おー、おー、おー」と掛け声をあげ、約400メートルの馬場を駆け抜けると、観客から盛大な拍手が送られました。競馬神事の後は子ども向けの乗馬体験が行われ、初めて乗る馬に興奮する子どもと、温かく見守る保護者の姿がありました。

赤こんリポート　東 知樹リポーター

夜に浮かぶ火の筆跡

5月4日、上田町の篠田神社で「篠田の花火」が行われました。私は自転車で神社に向かって行ったのですが、神社に近づくにつれ、力強い太鼓の音が大きくなっていったのがとても印象に残っています。また、通り道の田んぼでは、カエルがたくさん鳴いていて、季節の変化を実感することができました。打ち上げ花火はとても大きな音とともに、澄み切った夜空に大きな花を咲かせており、訪れている人の目を奪っていました。長い歴史を持つ仕掛け花火では、着火時の大爆発の後、「飛び出し坊や」や「安土城」などの絵柄が浮かび上がり、言葉を失うほどの迫力がありました。

赤こんリポート　松村 美沙枝リポーター

気軽に、スタイリッシュに脱炭素化を推進

市内在住の山本友紀さんは、LFCコンポストアドバイザーとして、LFCコンポストの普及活動を現在県内外各地で行っています。LFCコンポストとは、バッグ型のコンポストのことで、家庭から出る生ごみをベランダなどの小さなスペースで堆肥にすることができ、手軽に環境に良い暮らしを始めることができるものです。またメリットとして、生ごみ臭から解放され、ごみを出すときの汁漏れなどのストレスがなくなり、さらには作った堆肥でおいしい野菜などを育てることもできます。山本さんは「環境のためだけだと思われがちですが、自分にも良いことがたくさんあることを、少しでも多くの人に知ってほしい」と笑顔で話してくれました。

赤こんリポート　山田 恵美リポーター

親子で愉しむ「ピアノとお歌のプチコンサート」

昼下がりの4月20日、温かい音色とやさしい歌声に誘われて向かうと、そこはアクア21にあるはちはぴひろば前の交流スペース。新たに設置されたストリートピアノを使って、市内で活動されているこねこねこの森口美和子さんがプチコンサートを開催していました。参加した親子はピアノの音楽に合わせて歌い、やわらかくカラフルなオーガンジーの布をふわふわさせたり、タンバリンをたたいたり、親子で触れ合いながら楽しい時間を過ごしていました。

ストリートピアノは、はちはぴひろばとほんわかの家金田が開館している午前10時から午後3時まで利用可能です。市内の子育て家庭がたくさん訪れるはちはぴひろば。やさしい音楽をぜひ届けに来てください。

赤こんリポート　馬場 利男リポーター

第18回八幡山親子タケノコ掘り大会

市民が楽しみにしている春のイベント「親子タケノコ掘り大会」が4月27日、八幡山の景観を良くする会の主催、（一社）秀次家臣団屋敷跡竹林を守る会の共催で開催され、スタッフ含めて約210人が参加しました。

タケノコの根が太かったり斜面にあったりして、見つけたタケノコを掘るのが難しい場合もありましたが、家族全員で四苦八苦しつつ、楽しそうに掘っていました。子どもたちは苦労して掘れたタケノコを見て笑顔になり、写真を撮るなどしていました。タケノコを掘った後は、タケノコ入りのカレーライスやおやつが振る舞われ、紙芝居の朗読などもあり、家族で楽しいひと時を過ごしていました。スタッフの皆さんは前日からの準備お疲れさまでした。